

測定する能力	
漢字・語彙力	論理的言語力
論理的読解力	論理的思考力
論理的表現力	

《問題Ⅰ》漢字・語彙力

(40点)

●解答

- 第一問
- (1) 器・機
 - (2) 医薬・違約
 - (3) 士・志
 - (4) 移管・偉観
 - (5) 観賞・感傷

第二問

- (1) 天
- (2) 体
- (3) 故
- (4) 寒
- (5) 凶

第三問

- (1) 尾行
- (2) 指図
- (3) 薄情
- (4) 淡泊(淡泊)
- (5) 獲得

第四問

- (1) 君の話にはどこか矛盾がある。
- (2) 路傍に咲いた花を摘む。
- (3) 君の自慢話は飽きた。
- (4) 新鮮な野菜を食べよう。
- (5) 君には洋々たる前途が開けている。

■配点

- 第一問 各2点(完全解答)
- 第二問 各2点
- 第三問 各2点
- 第四問 各2点

◆解説

第一問 同音異義語の問題。文脈から意味を考へる。

- (1) 器なのか、機械なのか。
- (2) 医療の薬品なのか、契約違反なのか。
- (3) 同じ士(人)なのか、同じ志を持っているのか。
- (4) 管を移すのか、圧倒する印象なのか。
- (5) 美しい物を見て味わうのか、物事に感じて心を痛めるのか。

第二問

- (1) 有頂天は、天にも昇る気持ち。
- (2) 絶体絶命は、追い詰められて進退きわまること。
- (3) 温故知新は、古きを温め、新しきを知ること。
- (4) 寒心はぞつとすること。
- (5) 凶に乗るは、調子に乗ってつけあがること。

第三問

- (1) 文脈から、適切な語句を選びましょう。
 - (2) 尾行は、気がつかれないように、後をつけていくこと。
 - (3) 指図は、他のものに指示すること。
 - (4) 薄情は、情が薄いこと。
 - (5) 淡泊は、物事にこだわらないこと。
- 獲得は、得ること。栄冠を突破とか、到達とは言わない。

第四問

主語と述語をまず見つける。

- (1) 「矛盾がある」が主語と述語、「君の話には」↓「ある」、「どこか」↓「ある」とつながる。
- (2) 助詞・助動詞を自立語につけて文節を作ると、「花を」「咲いた」「路傍に」となりませぬ。あとは、「路傍に」↓「咲いた」↓「花を」↓「摘む」とつながる。
- (3) 「話は飽きた」が主語と述語。「君の」↓「自慢」↓「話は」とつながる。
- (4) 「野」+「菜」で野菜となることを見抜くこと。「野菜を食べよう」が目的語と述語。「新鮮な」↓「野菜を」とつながる。
- (5) 「洋々」「たる」「前途」という決まり文句を見つける。「君」「には」↓「開け」↓「て」「いる」とつながる。

《問題Ⅱ》論理的言語力

(40点)

●解答

- 第一問 (1) ウ (2) オ (3) イ
- 第二問 カフェ
- 第三問

奇抜な話の上に成り立った谷崎潤一郎の小説の何編かが百代の後にも残ること。

第四問

- (1) b オ (2) c ウ (3) e エ
- (4) a カ (5) d ダ

第五問

- (1) イ (2) エ (3) ア
- (4) オ (5) ウ

■配点

- 第一問 各3点
- 第二問 5点
- 第三問 6点
- 第四問 各2点(完全解答)
- 第五問 各2点

◆解説

第一問 一文の論理構造を読み取る問題。

- (1) 「来週は」↓「発表会だ」が主語と述語。「いよいよ」↓「発表会だ」、「ずっと」↓「練習してきた」↓「ダンスの」↓「発表会だ」とつながる。
- (2) 「眺めることが」↓「趣味だ」が主語と述語。「美しい」↓「景色を」↓「眺めること」が、「ただ」↓「眺めることが」、「私の」↓「趣味だ」とつながる。
- (3) 「時が」↓「必要だ」が主語と述語。「人生には」↓「必要だ」、「寝る間も」↓「ないほど」↓「頑張る」↓「時が」とつながる。

第二問

指示語の問題。指示語は直前から検討していくのが、鉄則。

「それ」は主語で、述語は「カフェだった」。直前の「カフェ」を指しているが、「停車場のカフェは、カフェという名を与えるのも考えものに近いカフェだった」という文となる。

第三問

指示内容は、直前の「奇抜な「話」の上に立った同氏の小説の何篇かはおそらくは百代の後にも残るであらう」を指しています。「具体的」という条件から、「同氏」↓「谷崎潤一郎」と分かります。あとは、「それ」が名詞なので、指示内容を名詞化し、字数以内に収めます。

第四問

接続語・副詞・助詞が交じっているので、注意が必要です。

- (1) 助詞が入ります。助詞の説明としては、**エ**と**オ**ですが、ここでは限定ではなく、程度。
- (2) 「私」の目に入る世界は、極めて狭いと述べ、さらに、風邪を引いたために、表へ出ずに硝子戸の中ばかり座っていること、世間の様子が分からないとして、**ア**にしないこと。
- (3) 「ただ」↓「だけ」で、限定を表します。
- (4) 私の体は硝子戸の中だが、頭は動くのだから、**エ**と**オ**の「しかし」。
- (5) 副詞で、「また」↓「思いがけない」と用言に係ります。

第五問

- (1) 「新しい」と、「新生活」の「新」が重複表現。
- (2) 私は姉に比べてピアノをうまくひけないのか、私も姉もピアノがうまくひけないのか、どちらにも取れます。
- (3) 「あなたの頑張る姿に」とするべきです。「小さい」の主語は、「悩みは」。「私は」の述語にあたる言葉がないので、間違い。
- (5) 「日の目を見る」は、それまで知られていなかったものが世間に認められること。

《問題Ⅲ》論理的読解力

(40点)

●解答

- 第一問 午前十時までと夕方
- 第二問
- 第三問 B
- 第四問
- 第五問 エ
- 第六問 イ

■配点

- 第一問 6点
- 第二問 各2点
- 第三問 6点
- 第四問 各2点
- 第五問 6点
- 第六問 6点

◆解説

室生犀星の「日本の庭」に関する随想であることを頭に置くこと。

第一問

客が訪問して主人に庭を見せてもらうのに適切な時間を二つ、文中から探し出します。直前で「午前なら十時ごろまで」とあり、さらに「夕方はどういいう庭でも美しい」とあります。

第二問

a 直後に「それは、他人が見られない奥の深いところ」とあるので、ク「精神」が答え。

b 「教養、英知、学問」とあり、さらに直前で「教養」とあるので、コ「英知」が答え。

c 直前に「雑然と木を植え込んだ」とあることから、「緊張を失った生活」を髣髴させると分かります。

d 直前の「そんな」の指示内容が「生きた父とか母とかの歴史が、すぐ茶の間から見える」なので、イ「親しさ」が答え。

第三問

欠落文の話題は「垣根」であることに注意。「垣根」の話題は、(A) から後である。さらに、欠落文に「何故かといえば」とあるので、空所前後を検討し、欠落文がどの箇所の理由になっているかを考えます。すると、(A) の後にある「庭には木も石もいらぬような気がし出した」の理由だと分かります。

第四問

(1) 直後に「ようなもの」とあるので、「いきなり訪ねて庭を見せてくれ」と似たような、「不躰」な行為を選びます。

(2) 直前の「庭が夜の中に沈み込む」と、直後の「花も石も、木の幹も、みなそれぞれに見る人の心につながって来る」から判断します。

(3) 直前で建築家や事業を目ざす人びとが庭を見て仕事を組み立てたとあり、直後に「これだけ庭の静かさが必要だったか」とあることから、エ。

(4) 直後に「人はその生涯において」とあり、最後に「石や灯籠も、花も見なくなつた」とあるので、死に近づいていると言えます。

第五問

直後に「最後に垣根と土を見て十分満足する」とあるので、垣根と土を見るだけで、庭を思い浮かべる人のことを指しています。

第六問

天下の名園を見つくれた人は、いつでも心に美しい庭を思い浮かべることが出来るから、イ「もはや何もいらぬはずであった」が答え。

《問題Ⅳ》

論理的思考力

(40点)

●解答

第一問

- (1) いる 練習を(長い時間をかけなければ)わからないことがある。(2) つけて みた(なくした)と思っていた ネットレスが部屋にあった。(3) *

第二問

- (1) 晴れだろう(晴れるだろう)(2) 来てほしい

第三問

法隆寺は一九九三年に世界文化遺産に登録された木造建築物だ。

第四問

裁判員制度の導入により、専門家だけでなく、さまざまな経験や知識を持った市民が参加することとなり慎重に判断することにつながっている。

第五問

冤罪をなくすためには「取り調べの可視化」「証拠の全面開示」が必要だ。

■配点

- 第一問 各2点 第二問 各4点 第三問 6点 第四問 8点 第五問 10点

◆解説

第一問

(1) 述語になれる言葉が複数ある点が難しいかもしれません。主語との関係から判断します。「わからない」「ことが」「ある」という主語と述語の関係をまずつかまえます。残りの言葉でつながりを見ると、「長い」「時間を」「かけなければ」「わからない」となります。

(2) 「ネットレスが」「あった」が主語と述語。「なくした」「思つて」「いた」「ネットレス」、「部屋に」「あった」とつながります。

第二問

呼応関係の問題です。用言(述語となる言葉)を修飾する言葉なので、用言とのつながりを考えます。

(1) 「おそらく」は推測する言葉なので、「だろう」で終わらなければなりません。(2) 「ぜひ」は、「ほしい」「ください」「たい」など、依頼や願望を表す言葉を伴います。

第三問

①の文の構造は変えてはいけません。そこで、②の文を「法隆寺」を説明する言葉に変形します。

第四問

話題は「裁判員制度の導入」についてです。それに対する筆者の主張を読み取ります。冒頭から、裁判員制度の説明が続きます。今までの裁判に対して、裁判員制度を導入することはどのような意味があるのかを述べた文章なので、最後の一文「専門家だけでなく、さまざまな経験や知識を持った市民が参加することで、慎重に判断することにつながる」が筆者の主張と言えます。

第五問

話題は「冤罪」で、「冤罪をなくすため」には、どのようにしたらよいでしょうか。と問題が提起されています。そこで、その答えを探すと、筆者は二つ目「取り調べの可視化」、二つ目「証拠の全面開示」としています。他はその二つの理由説明、あるいは具体的説明です。「四十文字以内」という字数条件を考えると、「冤罪をなくすため」「取り調べの可視化」「証拠の全面開示」の三つがポイント。

《問題Ⅴ》

論理的表現力

(40点)

●解答例

第一問

女性で学年が低い方がネット依存になりやすい。

第二問

インターネット上に新しい友達を求めたり、ストレス発散や現実逃避の場所としてとらえている点。

第三問

本来学校の事務的連絡に利用するつもりが、ソーシャルメディアに熱中しすぎて、結果的に学校に遅刻したり欠席しがちになったりする。

第四問

インターネットに依存すると、引きこもりがちになって健康を害したり、日常生活に支障をきたしたりすることもあり、さらには人間関係でトラブルを抱え込むことがあるなど、様々なストレスを抱える可能性がある。

■配点

- 第一問 6点 第二問 10点 第三問 12点 第四問 12点

◆解説

第一問

グラフAを正確に読み取ったかどうか。「ネット依存傾向高」は、男性が3.9に対して、女性が5.2。学年では一年生が5.2で最も多い。

第二問

ソーシャルメディアの利用目的なので、表Aを正確に読み取ったかどうか。「ネット依存傾向高」と「ネット依存傾向低」とを比較すると、「新たな友達たちをつくるため」「ストレス解消のため」「現実から逃れるため」が著しく差があることが分かります。

第三問

表Aから「学校・部活動などの事務的な連絡のため」が利用目的なのに、表Bから「ネットのしすぎが原因で、学校に遅刻したり欠席しがちになっている」ことが分かります。また表Aで「友達ちや知り合いとコミュニケーションをとるため」「新たな友達ちをつくるため」とあるのに対して、表Bでは「友達ちづきあいに束縛されているような感じが出てきた」とあります。こうした矛盾点を一つ説明できていれば、正解。

第四問

表Bから、「支障」「ストレス」「人間関係」「日常生活」に関するものを探すと、「友達ちとのやりとり」に気が使うことが多くなった」「友達ちづきあいに束縛されているような感じが出てきた」からは「人間関係」「ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている」「ネットのしすぎが原因で、健康状態が悪化している」からは「日常生活」が「支障」をきたしていることが分かります。